

# 長与町版架け橋期カリキュラム

## 活用ガイド

★保育園・こども園・幼稚園・小学校の先生方へ★



～ 目次 ～

- 長与町版 架け橋期カリキュラム【アプローチカリキュラム】（5歳児）
  - 長与町版 架け橋期カリキュラム【スタートカリキュラム】（小学1年生）
1. はじめに . . . P1
  2. カリキュラムの目的と構成 . . . P1
  3. 活用方法      (ア) 保育園・こども園・幼稚園の先生方へ . . . P2
  4.                   (イ) 小学校の先生方へ . . . P7
  5. カリキュラム活用のための年間スケジュール例 . . . P12
  6. よくある質問 (Q&A) . . . P13
  7. おわりに . . . P13

長与町版 架け橋期カリキュラム【アプローチカリキュラム】（5歳児）

時期		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
幼児の姿・しぐさ・力	知識及び技能	自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝える。											
	思考力・判断力・表現力等	考えたり、試したりして、友達と遊ぶことを楽しむ。/遊びの中での不思議に気づき、聞いたり、調べたり、試したりするようになる。/目的に向かって、実現するための方法を考えて遊ぶ。											
	学びに向かう力・人間性等	年長児になった喜びと意欲をもって生活しようとする。/みんなが気持ちよく生活するために必要なことに気づき、協力しようとする。/就学に期待をもち、自信をもって生活しようとする。											
取り組み活動	★ねらい	<p><b>【製作】</b> ★いろいろな素材を使って、自分のイメージの物を作り、表現することを楽しむ。 ★道具の使い方を理解して正しく使う。 ★細かい作業を通して、手先の器用さを高める。 ★友達のアイディアを聞き、自分の作品に取り入れる等、相互に影響し合う。 (例) 絵（絵の具）、工作、折り紙</p>	<p><b>【集団遊び】</b> ★体を思いきり動かしながら、友達と考えを出し合い、協力して遊びを楽しむ。 ★友達と一緒に取り組む中で、友達の気持ちを感じたり、自分の力を伸ばしたりして、経験を遊びに取り入れる。 ★ルールを守って安全に遊ぶ。 (例) 鬼遊び、ドッジボール、サッカー、水遊び、だるまさんが転んだ、フルーツバスケット</p>	<p><b>【ごっこ遊び】</b> ★友達とイメージを共有しながら、遊びをすすめ、言葉のやりとりを楽しむ。 ★文字や数、表示などを使って、遊びに必要なものを用意したり、役割を伝え合ったりして遊ぶ。 (例) 買い物ごっこ、郵便屋さんごっこ</p>	<p><b>【栽培】</b> ★野菜や花を栽培し、育てる楽しさや大変さを味わい、生命力・命の尊さを認識する。 ★友達と一緒に収穫した喜びを味わい、食べ物への関心を高める。 ★自然に触れる経験の中で、責任感を養う。 (例) 夏野菜や花の苗植え、芋ほり、みかん狩り、クッキング</p>								
指導上の配慮事項	保育者のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●みんなで一つのことに取り組む楽しさを伝え、頑張っている姿を認め、あきらめずに挑戦していくことの大切さを知らせていく。</li> <li>●生活の中で感じたことや考えたことを自由に表現する機会を設ける。</li> <li>●話し合いをしたり、子どもたち自身でルールを作ったり、遊びを発展していけるよう援助する。</li> <li>●互いの思いや考えが伝わりにくい場合は、互いの考えが理解できるよう仲立ちする。</li> <li>●ルールがある遊びを提供し、その場面にあった声かけをする。</li> <li>●小学校生活に期待をもてるような環境づくりや声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども同士で励まし合い、認め合えるように見守っていく。</li> <li>●子ども同士の関わりやつながりのきっかけになるような声かけをする。</li> <li>●一人一人の気付きや感動に共感し、体験を深めたり、思考が広がる手助けをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いろいろな素材・道具の正しい使い方を伝える。</li> </ul>									
	環境（もの・こと）の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆イメージが共有しやすいように実際に見せたり、掲示物や図鑑を用意したりして、子ども同士がやりとりできるように配慮する。</li> <li>◆文字や数、生活に必要なものを使って遊べる環境を用意しておく。</li> <li>◆園外活動や絵本などを用いて、自分ととりまく環境について知り、体験できるようにする。</li> <li>◆一人一人の活動への多様な取り組みを受け止め、知的好奇心や探求心が満たされるように豊かな環境を整える。</li> <li>◆遊びにつながるような素材や用具を用意し、子どもが自由に使えるように設定する。</li> <li>◆自分たちで遊びに必要なものをそろえることができるように、道具や材料を十分に準備する。</li> <li>◆準備や片付けを自分たちでできるように、所定の場所を用意したり、表示をしたりする。</li> <li>◆時計を見て行動できるように、時間の目安を示しておく。</li> </ul>											
幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿	<p>1 健康な心と体      2 自立心      ★ 3 協働性      4 道徳性・規範意識の芽生え      5 社会生活とのかかわり</p> <p>6 思考力の芽生え      7 自然との関わり・生命尊重      8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚      ★ 9 言葉による伝え合い      10 豊かな感性と表現</p>												
幼保小連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携推進協議会</li> <li>・学校訪問</li> <li>・園訪問</li> </ul>												
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てや子どもとの関わり方についての悩みを受け止められる関係を築いていく。</li> <li>●同年代の子どもを持つ親同士で、子育ての悩みを言い合ったり、情報交換をしたりする機会を作る。</li> <li>●幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期カリキュラム」等についての理解の促進を図る（園通信、入学説明会、ホームページなどで周知、啓発）</li> <li>●行事や活動の中で頑張ったことを認めてもらい、今後の活動へ自信をもってつなげられるようにする。</li> <li>●子どもの成長を共に喜び、安心して入学を迎えられるように支援していく。</li> </ul> 												

# 長与町版 架け橋期カリキュラム【スタートカリキュラム】（小学1年生）

小学1年生



時期		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児童の姿ほ・し・かい	知識及び技能	相手との関わりを考えながら、自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝える。/相手が伝えたいことを認め、自分の思いや考えを伝える。											
	思考力・判断力・表現力等	園での生活や経験を生かし、友達と協力して学び合う。/自分の思いや考えを工夫して表現する。/友達の良さや違いに気づき、伝え合う。											
	学びに向かう力・人間性等	自分でできることや新たな活動に楽しみながら進んで取り組もうとする。/学習や生活の目標に向かって、意欲的に活動に取り組もうとする。/進級に期待をもち、主体的に生活しようとする。											
取り組む活動（生活科を中心に）		【4～5月】 いくぞ！ がっこうたんけん	【5～9月】 わたしのはなを そだてよう	【6～7月】 なつとなかよし	【9～10月】 生きもの大すき	【10～11月】 あきとなかよし	【11～12月】 じぶんでチャレンジ 大きくせん	【1～2月】 ふゆとなかよし	【2～3月】 もうすぐ2年生				
指導上の配慮事項	教員のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人と関わる活動を位置付けたり、環境を工夫したりすることで、新しい友達と交流できる場面を増やす。</li> <li>●子どもと一緒に学校を探検しながら、そこにいる大人、上級生と話すように促す。</li> <li>●行ってみたい場所や確かめたいことがある話を取り上げ、友達と一緒に探検することを促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花を育てるために、継続する活動の必要性に気付かせ、園での経験を生かしながら、自分たちで係の仕事（お世話の仕方）を考えさせ、活動を充実させる方法を話し合わせるようにする。</li> <li>●友達の世話の仕方と自分の世話の仕方を比べたり、話をしたりしながら、教員が記録カードに書き添えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園での経験を想起させ、安心して活動できるよう声かけを行う。</li> <li>●夏休みにも継続して観察できるように、ワークシートを配布し、色ぬり（シール）ができるように準備する。</li> <li>●夏の校庭に出て、春の様子との違いに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生きものを見つけたら、飼ったりする経験を通して、感じたことを伝え合う場を、他教科（国語）に位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども同士が互いの考えを話し合えるように、グループ（2～3人組）学習を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々なことに挑戦して、できるようになったことが増えた今の自分と以前の自分を比較させ、自分自身の成長や達成感を感じるができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●冬の遊びを紹介する際には、いくつかの発表方法を考えさせ、選択することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1年前に、今の2年生に優しく迎えてもらった時のことを思い出させて、自分の成長を感じられるように支援する。</li> <li>●友達との相互評価の時間を十分に確保する。</li> <li>●自分たちの成長を振り返り、2年生進級への喜びや期待をもたせるため、一人一人の成長を価値付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園での経験を想起させ、みんなが楽しめるルールを話し合わせるようにする。</li> </ul>			
	環境（もの・こと）の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆入学式等の写真や入学式で関わってくれた先生などの写真を準備し、見せる。</li> <li>◆自分たちで場所を探しながら、活動できるように、イラスト等で示した部屋の名前を貼っておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆植物の成長を記録カードやタブレット端末で写真撮影をし、どこが変わったかを捉えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆道具の使い方を提示しておいたり、場の設定を視覚的に示したりすることで、安心して活動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆図鑑や写真、動画等を見せ、イメージを広げることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆夏と秋の校庭の写真を提示し、変化を視覚的に捉えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆お手伝いカードを使って、意欲的にお手伝いができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆冬の自然物や年中行事、遊びについての写真や動画、図鑑、絵本などを見せ、イメージを広げることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆入学した時の写真等を準備し、見せる。</li> <li>◆1年間の成長の記録や行事写真等を準備し、振り返ることができるようにする。</li> </ul>				
幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿	1 健康な心と体      2 自立心      ★ 3 協働性      4 道徳性・規範意識の芽生え      5 社会生活とのかかわり 6 思考力の芽生え      7 自然との関わり・生命尊重      8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚      ★ 9 言葉による伝え合い      10 豊かな感性と表現												
幼保小連携		・連携推進協議会	・学校訪問		・園訪問								・園との交流 ・園訪問 ・連携推進協議会
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てや子どもとの関わり方についての悩みを受け止められる関係を築いていく。</li> <li>●同年代の子どもを持つ親同士で、子育ての悩みを言い合ったり、情報交換をしたりする機会を作る。</li> <li>●幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期カリキュラム」等についての理解の促進を図る（学校通信、ホームページなどで周知、啓発）</li> </ul>												



## 1. はじめに

長与町では、5歳児から小学1年生への移行期を「架け橋期」と位置付け、子どもたちがスムーズに小学校生活へ適応できるよう、「アプローチカリキュラム（5歳児）」と「スタートカリキュラム（小学1年生）」を作成しました。

本ガイドは、園や学校の先生方がこのカリキュラムを日々の実践に活用していただくための手引きです。

## 2. カリキュラムの目的と構成

### (1) カリキュラムの目的

- アプローチカリキュラム：就学に向けて、園生活で育てたい力を計画的に培う
- スタートカリキュラム：園での経験を生かし、小学校生活への適応を支援する

この2つのカリキュラムは連動しており、『**幼児期のおわりまでに育ててほしい10の姿**』を共通の視点として、子どもたちの育ちを切れ目なくつないでいきます。

### (2) カリキュラムの構成

両カリキュラムは以下の項目で構成されています。

- 時期（4月～3月の年間計画）
- 育ててほしい**幼児・児童の姿・力**（知識及び技能／思考力・判断力・表現力等／学びに向かう力・人間性等）
- **取り組む活動**（具体的な活動例とねらい）
- **指導上の配慮事項**（保育者・教員のかかわり／環境の工夫）
- **幼児期のおわりまでに育ててほしい10の姿**
- **家庭との連携**
- **幼保小連携**

### 3. 活用方法

#### (ア) 保育園・こども園・幼稚園の先生方へ

##### (1) 「アプローチカリキュラム」の年間指導計画への反映

カリキュラムには、4月～3月の時期ごとに育てたい力が明記されています。

- **知識及び技能**：自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝える
- **思考力・判断力・表現力等**：考えたり、試したりして、友達と遊ぶことを楽しむ／遊びの中の不思議に気づき、聞いたり、調べたり、試したりするようになる／目的に向かって実現するための方法を考えて遊ぶ
- **学びに向かう力・人間性等**：年長児になった喜びと意欲をもって生活しようとする／みんなが気持ちよく生活するために必要なことに気づき、協力しようとする／就学に期待をもち、自信をもって生活しようとする

##### <活用のポイント>

- 年間指導計画を作成する際、この「育てたい力」を参考にしてください。
- 園の実態や子どもの姿に合わせて、柔軟にアレンジすることが可能です。

##### (2) 日々の保育実践への活用（取り組む活動の参考に）

###### 【製作】

- いろいろな素材を使って、自分のイメージの物を作り、表現することを楽しむ
- 道具の使い方を理解して正しく使う
- 細かい作業を通して、手先の器用さを高める
- 友達のアイデアを聞き、自分の作品に取り入れる等、相互に影響し合う

（例）絵（絵の具）、工作、折り紙

### 【集団遊び】

- 体を思いきり動かしながら、友達と考えを出し合い、協力して遊びを楽しむ
- 友達と一緒に取り組む中で、友達の気持ちを感じたり、自分の力を伸ばしたりして、経験を遊びに取り入れる
- ルールを守って安全に遊ぶ

(例) 鬼遊び、ドッジボール、サッカー、水遊び、だるまさんが転んだ、フルーツバスケット

### 【ごっこ遊び】

- 友達とイメージを共有しながら、遊びをすすめ、言葉のやりとりを楽しむ
- 文字や数、表示などを使って、遊びに必要なものを用意したり、役割を伝え合ったりして遊ぶ

(例) 買い物ごっこ、郵便屋さんごっこ

### 【栽培】

- 野菜や花を栽培し、育てる楽しさや大変さを味わい、生命力・命の尊さを認識する
- 友達と一緒に収穫した喜びを味わい、食べ物への関心を高める
- 自然に触れる経験の中で、責任感を養う

(例) 夏野菜や花の苗植え、芋ほり、みかん狩り、クッキング

#### <活用のポイント>

- これらの活動例を参考に、園の環境や子どもの興味・関心に応じた活動を計画してください。
- 活動のねらいを意識することで、より効果的な保育実践につながります。

### (3) 保育者のかかわり方の参考に

- みんなで一つのことに取り組む楽しさを伝え、頑張っている姿を認め、あきらめずに挑戦していくことの大切さを知らせていく
- 生活の中で感じたことや考えたことを自由に表現する機会を設ける
- 子ども同士で励まし合い、認め合えるように見守っていく
- 話し合いをしたり、子どもたち自身でルールを作ったり、遊びを発展していけるよう援助する
- 子ども同士の関わりやつながりのきっかけになるような声かけをする
- 互いの思いや考えが伝わりにくい場合は、互いの考えが理解できるよう仲立ちする
- 一人一人の気付きや感動に共感し、体験を深めたり、思考が広がる手助けをしたりする
- ルールがある遊びを提供し、その場面にあった声かけをする
- いろいろな素材・道具の正しい使い方を伝える
- 小学校生活に期待をもてるような環境づくりや声かけをする

#### <活用のポイント>

- 日々の保育の中で、これらのかかわり方を意識してください。
- 特に小学校生活に期待をもてるような環境づくりや声かけは、就学に向けて重要です。

### (4) 環境構成の工夫

- イメージが共有しやすいように実際に見せたり、掲示物や図鑑を用意したりして、子ども同士がやりとりできるように配慮する
- 文字や数、生活に必要なものを使って遊べる環境を用意しておく
- 園外活動や絵本などを用いて、自分を取りまく環境について知り、体験できるようにする
- 一人一人の活動への多様な取り組みを受け止め、知的好奇心や探求心が満たされるように豊かな環境を整える

- 遊びにつながるような素材や用具を用意し、子どもが自由に使えるように設定する
- 自分たちで遊びに必要なものをそろえることができるように、道具や材料を十分に準備する
- 準備や片付けを自分たちでできるように、所定の場所を用意したり、表示をしたりする
- 時計を見て行動できるよう、時間の目安を示しておく

#### <活用のポイント>

- 保育室や園庭の環境を見直し、子どもが主体的に活動できる環境を整えてください。
- 特に文字や数、時計など、小学校生活につながる環境を意識的に取り入れましょう。

#### (5)「幼児期のおわりまでに育ってほしい10の姿」の視点で子どもを見る

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協働性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活とのかかわり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

#### <活用のポイント>

- 日々の保育の中で、子どもの姿をこの「10の姿」の視点で捉えてください。
- 小学校の先生との連携の際にも、この「10の姿」を共通言語として活用できます。

## (6) 家庭との連携

- 子育てや子どもとの関わり方についての悩みを受け止められる関係を築いていく
- 行事や活動の中で頑張ったことを認めてもらい、今後の活動へ自信をもってつなげられるようにする
- 同年代の子どもを持つ親同士で、子育ての悩みを言い合ったり、情報交換をしたりする機会を作る
- 子どもの成長を共に喜び、安心して入学を迎えられるように支援していく
- 幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期カリキュラム」等についての理解の促進を図る（園通信、入学説明会、ホームページなどで周知、啓発）

### <活用のポイント>

- 園通信や保護者会などで、カリキュラムの内容や子どもの育ちを保護者に伝えてください。
- 保護者が安心して就学を迎えられるよう、丁寧なコミュニケーションを心がけましょう。

## (7) 幼保小連携の活用

- 連携推進協議会
- 学校訪問（長与の子の心を見つめる教育週間）
- 園訪問
- 小学校との交流
- 入学説明会

### <活用のポイント>

- これらの連携の機会を積極的に活用し、小学校の先生と子どもの育ちについて情報交換してください。
- 小学校訪問や交流活動を通じて、子どもたちが小学校生活に期待をもてるようにしましょう。

## 4. 活用方法

### (イ) 小学校の先生方へ

#### (1) 「スタートカリキュラム」の年間指導計画への反映

カリキュラムには、4月～3月の時期ごとに育てたい力が明記されています。

- **知識及び技能**：相手との関わりを考えながら、自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝える／  
相手が伝えたいことを認め、自分の思いや考えを伝える
- **思考力・判断力・表現力等**：園での生活や経験を生かし、友達と協力して学び合う／自分の思いや考えを工夫して表現する／友達の良さや違いに気づき、伝え合う
- **学びに向かう力・人間性等**：自分でできることや新たな活動に楽しみながら進んで取り組もうとする  
／学習や生活の目標に向かって、意欲的に活動に取り組もうとする／進級に期待をもち、主体的に生活しようとする

#### <活用のポイント>

- 1年生の年間指導計画（特に生活科）を作成する際、この「育てたい力」を参考にしてください。
- 園での経験を生かした学びを意識することが重要です。

#### (2) 生活科を中心とした活動の展開

カリキュラムには、生活科を中心とした具体的な活動が示されています。

- **【4～5月】** いくぞ！がっこうたんけん
- **【5～9月】** わたしのはなをそだてよう
- **【6～7月】** なつとなかよし
- **【9～10月】** 生きもの大すき
- **【10～11月】** あきとなかよし
- **【11～12月】** じぶんでチャレンジ大きくせん

- **【1～2月】** ふゆとなかよし
- **【2～3月】** もうすぐ2年生

#### <活用のポイント>

- これらの活動を参考に、生活科の単元計画を立ててください。
- 園での経験（栽培活動、自然との触れ合い、友達との協働など）を想起させながら活動を進めましょう。

### (3) 教員のかかわり方の参考に

- 人と関わる活動を位置付けたり、環境を工夫したりすることで、新しい友達と交流できる場面を増やす
- 子どもと一緒に学校を探検しながら、そこにいる大人、上級生と話すように促す
- 行ってみたい場所や確かめたいことがある話を取り上げ、友達と一緒に探検することを促す
- 花を育てるために、継続する活動の必要性に気付かせ、**園での経験を生かしながら**、自分たちで係の仕事（お世話の仕方）を考えさせ、活動を充実させる方法を話し合わせるようにする
- 友達の世話の仕方と自分の世話の仕方を比べたり、話をしたりしながら、教員が記録カードに書き添えたりする
- **園での経験を想起させ、安心して活動できるような声かけを行う**
- 夏休みにも継続して観察できるように、ワークシートを配布し、色ぬり（シール）ができるように準備する
- 夏の校庭に出て、春の様子との違いに気付かせる
- 生きものを見つけたり、飼ったりする経験を通して、感じたことを伝え合う場を、他教科（国語）に位置付ける
- 子ども同士が互いの考えを話し合えるように、グループ（2～3人組）学習を取り入れる
- 様々なことに挑戦して、できるようになったことが増えた今の自分と以前の自分を比較させ、自分自身の成長や達成感を感じることができるようにする

- 冬の遊びを紹介する際には、いくつかの発表方法を考えさせ、選択することができるようにする
- 1年前に、今の2年生に優しく迎えてもらった時のことを思い出させて、自分の成長を感じられるように支援する
- 友達との相互評価の時間を十分に確保する
- 自分たちの成長を振り返り、2年生進級への喜びや期待をもたせるため、一人一人の成長を価値付けられるようにする
- 園での経験を想起させ、みんなが楽しめるルールを話し合わせるようにする

#### <活用のポイント>

- 特に「園での経験を想起させる」ことを意識してください。
- 子どもたちが安心して小学校生活をスタートできるよう、園での経験を生かした声かけや活動の工夫を行いましょう。

#### (4) 環境構成の工夫

- 入学式等の写真や入学式で関わってくれた先生などの写真を準備し、見せる
- 自分たちで場所を探しながら、活動できるように、イラスト等で示した部屋の名前を貼っておく
- 植物の成長を記録カードやタブレット端末で写真撮影をし、どこが変わったかを捉えられるようにする
- 道具の使い方を提示しておいたり、場の設定を視覚的に示したりすることで、安心して活動できるようにする
- 図鑑や写真、動画等を見せ、イメージを広げることができるようにする
- 夏と秋の校庭の写真を提示し、変化を視覚的に捉えることができるようにする
- お手伝いカードを使って、意欲的にお手伝いができるようにする
- 冬の自然物や年中行事、遊びについての写真や動画、図鑑、絵本などを見せ、イメージを広げること

ができるようにする

- 入学した時の写真等を準備し、見せる
- 1年間の成長の記録や行事写真等を準備し、振り返ることができるようにする

**<活用のポイント>**

- 視覚的な支援（写真、イラスト、掲示物など）を積極的に活用してください。
- 子どもたちが自分で考え、行動できる環境を整えましょう。

**(5)「幼児期のおわりまでに育ってほしい10の姿」の視点で子どもを見る**

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協働性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活とのかかわり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

**<活用のポイント>**

- 園での育ちを理解するために、この「10の姿」の視点で子どもを見てください。
- 園の先生との連携の際にも、この「10の姿」を共通言語として活用できます。

## (6) 家庭との連携

- 子育てや子どもとの関わり方についての悩みを受け止められる関係を築いていく
- 行事や活動の中で頑張ったことを認めてもらい、今後の活動へ自信をもってつなげられるようにする
- 同年代の子どもを持つ親同士で、子育ての悩みを言い合ったり、情報交換をしたりする機会を作る
- 子どもの成長を共に喜び、安心して入学できるように支援していく
- 幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期カリキュラム」等についての理解の促進を図る（学校通信、ホームページなどで周知、啓発）

### <活用のポイント>

- 学校通信や保護者会などで、カリキュラムの内容や子どもの育ちを保護者に伝えてください。
- 保護者が安心して子どもの成長を見守れるよう、丁寧なコミュニケーションを心がけましょう。

## (7) 幼保小連携の活用

- 連携推進協議会
- 学校訪問（長与の子の心を見つめる教育週間）
- 園訪問
- 園との交流

### <活用のポイント>

- これらの連携の機会を積極的に活用し、園の先生と子どもの育ちについて情報交換してください。
- 園訪問などを通じて、園での子どもの姿や保育の工夫を学び、小学校での指導に生かしましょう。

## 5. カリキュラム活用のための年間スケジュール例

### 【保育園・こども園・幼稚園】

時期	活用のポイント
4月	年間指導計画にカリキュラムの内容を反映させる
5～7月	日々の保育でカリキュラムを意識した活動を展開する
8～10月	小学校との交流活動を計画・実施する
11～12月	就学に向けた環境づくりを強化する
1～2月	入学説明会でカリキュラムについて保護者に説明する
3月	小学校にカリキュラムを活用した子どもの育ちを伝える

### 【小学校】

時期	活用のポイント
3～4月	年間指導計画（生活科中心）にカリキュラムの内容を反映させる
4～5月	園での経験を想起させながら、安心して活動できる環境をつくる
6～10月	園での経験を生かした活動を継続的に展開する
11～1月	子どもの成長を実感できる活動を取り入れる
2～3月	1年間の成長を振り返り、2年生への期待をもたせる
通年	園訪問や連携推進協議会で園の先生と情報交換する

## 6. よくある質問 (Q&A)

**Q1. カリキュラムは必ず全て実施しなければなりませんか？**

A. いいえ。カリキュラムは参考資料です。園や学校の方針、子どもの実態に合わせて、柔軟に捉え活動に生かしてください。

**Q2. 園と小学校で連携する際のポイントは？**

A. 「幼児期のおわりまでに育ってほしい10の姿」を共通言語として、子どもの育ちについて具体的に情報交換することが大切です。

**Q3. 保護者にはどのように伝えればよいですか？**

A. 園通信や学校通信、保護者会などで、カリキュラムの目的や内容、子どもの具体的な育ちの様子を伝えてください。

**Q4. 他の先生と共有する方法は？**

A. 職員会議や園内研修、校内研修などで、カリキュラムの内容や実践事例を共有し、共通理解を図りましょう。

## 7. おわりに

長与町版架け橋期カリキュラムは、子どもたちが安心して小学校生活をスタートできるよう、園と学校が手を取り合って支援するためのツールです。先生方一人一人がこのカリキュラムを活用し、子どもたちの豊かな成長を支えていただくことを期待しています。

ご不明な点やご質問がございましたら、お気軽に長与町教育委員会・長与町こども政策課までお問い合わせください。

### 【お問い合わせ】

長与町教育委員会学校教育課 電話：095-801-5681

長与町役場こども政策課 電話：095-801-5886